

沼津西ロータリークラブ



2024～2025 年度・クラブテーマ

「Try It Now」やってみよう

会長 鈴木 和憲 / 幹事 久松 但

第 1530 回 第 34 巻 29 号 2025 年 3 月 27 日

■■ 本日のプログラム ■■
インターアクト活動報告

■ 4 月のプログラム ■

1531 回 12:30 4 月 03 日(木)	アクアガーデン迎賓館 PELS 報告 次年度会長・幹事
1532 回 12:30 4 月 10 日(木)	アクアガーデン迎賓館 クラブフォーラム 鈴木年度会長・ 久松幹事 グローバル補助金について 理事会
1533 回 12:30 4 月 17 日(木)	米山記念館 日帰り旅行について クラブ管理運営委員会
1534 回 12:30 4 月 24 日(木)	アクアガーデン迎賓館 地区協議会報告 次年度理事 地区協議会参加者

例会場 〒410-0046 沼津市米山町 3-37

アクアガーデン迎賓館沼津

TEL 055-920-5200

事務局 久松会計事務所内

TEL 055-961-2050 FAX 055-961-2600

E-mail: numawestrc@gmail.com

例会日 毎週木曜日 12:30 点鐘

公共イメージ向上委員長 名古 良輔 / 編集者 富岡 由樹

会長挨拶

● 会長 鈴木 和憲

ロータリーの公式標語をご存知ですか。「超我の奉仕」と「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」の歴史は、ロータリーの初期の頃にまでさかのぼります。

1911 年、オレゴン州ポートランドで開催された全米ロータリークラブ連合会の第二回ロータリー大会で「He Profits Most Who Serves Best」がロータリーの標語として承認されました。これは、前年にシカゴで開催された第一回ロータリー大会で、ロータリアンのアーサー・フレデリック・シェルドンが行った演説を基に作られた標語です。シェルドンはその演説の中で次のように語っています。「他者に対する正しい経営の科学のみが引き合うのだ。経営とは人間的な奉仕の科学である。その仲間に最も奉仕するものが最も多く報いられる」

ポートランドでのロータリー大会は、もう一つの標語「超我の奉仕」が誕生するきっかけともなりました。大会中にコロンビア川でボート乗りを楽しんでいた米国ミネソタ州ミネアポリス・ロータリークラブの会長、ベン・コリンズは、シアトルのロータリアン、J.E.ピンカムとロータリークラブを組織するのにふさわしい方法について話し合っていました。その中でコリンズは、自分のクラブで採用していた理念「無私の奉仕 (Service, Not Self)」を紹介しました。ピンカムは、同じボートに乗っていたロータリーの創始者、ポール・ハリスを呼んで会話を続けました。ハリスから依頼されコリンズは大会で演説を行い、この文言「無私の奉仕」が熱烈に歓迎されたのです。

この二つの標語は、1950 年にトロイトで開催された RI 国際大会で、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (He Profits Most Who Serves Best)」と「超我の奉仕 (Service Above Self)」に修正され、ロータリーの公式標語として正式に承認されました。1989 年の規定審議会では、「超我の奉仕」がロータリーの第一標語として採択されました。これは、この言葉が利己的でないボランティア奉仕の哲学を最もよく言い表しているとの理由からです。一方、「He Profit Most Who Serve Best」は 2004 年規定審議会で「They Profit Most Who Serve Best」に修正され、さらに 2010 年規定審議会で現在の標語「One Profits Most Who Serves Best」となりました。

◎ ゲスト

1.加藤学高等学校インターアクトクラブ顧問：

鈴木 力也先生

2.加藤学高等学校インターアクトクラブ部長：

植松宗治郎様

3.加藤学高等学校インターアクトクラブ部員：

伊藤 佑真様

◎ 欠席者(3名)

小野洋子、下原満知子、渡邊勝也

◎ 他クラブへの出席者

山田和典、下田朗弘(3/16 RLI パート②)

杉山真一、富岡由樹(3/22 PELS)

◎ スマイル報告

1.鈴木和憲：入会記念日のお祝いありがとうございます。

2.鈴木和憲、3.久松 但：加藤学園 IAC の皆様、年間活動報告を、よろしくお願ひします。

4.本村文一：所用にて早退します。

出席報告 会員数 20 名			
例会	会員数	出席数	出席率
1530 回	19 名	16 名	84.21%

幹事報告

1. 他クラブの例会変更

①富士宮西 RC 3/28(金) 祝日週振替 MU：無し

2. 報告、連絡事項

①4/17(木)が米山記念館で移動例会になりました。出欠席をご記入ください。

加藤学園高校インターアクトクラブ活動報告

顧問 鈴木力也 先生

先ず私からは学校及びクラブの紹介です。加藤学園高等学校は校訓「至誠」のもと 2026 年に 100 周年を迎えます。クラスは 4 コースに分かれ、α 特進コース、特進コース、進学コース、総合コースから構成され、大学進学に向けたカリキュラムのほか、それぞれ特長を生かした構成となっております。続いて、インターアクトクラブですが、創立は 2009 年 5 月 14 日、現在部員数 99 名と学校内最大となっており、兼部の生徒も多く、学校内のいたるところで部員は活躍しております。活動としては、外部との連携に注力しており、沼津市、商工会議所、東部保健所など連携の幅を広げ、有意義かつ充実したボランティア活動を展開しています。



部長補佐 伊藤佑真さん

私からは今年度の活動を振り返ります。今年度募金活動として沼津商工会議所青年部の皆さんと市内 4 カ所で能登半島地震募金活動を行いました。結果 70 万円を被災地の商工会議所へ送ることができました。また、校

内募金として文化祭にて募金活動を行い、40 万円を静岡新聞を通じ被災地へおくりました。

5/12 に沼津西ロータリークラブさんの千本浜清掃活動に参加しました。特に新入生は様々なゴミがあることに驚いた様子で、これを機に家庭でも自主的に分別をするようになったとのことでした。

山梨県の白根高校主催で開催された地区インターアクト年次大会に参加しました。特に地元紹介のグループワークでは仲見世商店街の「どんぐり」を紹介し他校の興味を引きました。

桐陽高校主催で片浜小学校体育館で行われました地区インターアクト指導者講習会にも参加しました。アスルクラロ沼津の方の講演では「プロファイリング」を勉強しました、人間は視覚・聴覚・その他の感覚のいずれかが特化して行動に表れるそうです。また、午後の避難所運営ゲームでは、災害時の避難所運営の難しさを学びました。

杉原千畝「命のビザ」募金も恒例の活動になっています。第二次大戦中にいわゆる「命のビザ」を発行し、多くのユダヤ人の命を救った外交官の杉原千畝、その妻が沼津出身であることから、毎年慰霊碑で式典が行われています。今年はプラザヴェルデでの活動になり、募金はウクライナへ送金されました。



部長 植松宗治郎さん

私からは今年度の新たな取り組みの紹介です。顧問の説明にもありましたが今年度は外部連携に注力し活動しました。まず東部保健所との連携では、「アボちゃんサポーター」の委嘱がありました。アボちゃんは献血啓発活動のイメージキャラクターです。サポーターとして、エフエム沼津でのラジオ放送出演、原地区センターでのティッシュ配りを行いました。他に薬物乱用防止の啓発グッズも企画しました。オリジナルキャラクター「マジヤ・メトコ」ちゃん「ハンタイム」君を載せたシールを張り付けた除菌シートは大反響となりました。

次に街づくり協力活動として、清水町、沼津市の活動に参加しました。特に沼津市では市内の各高校の生徒が話し合う高校生サミットに参加し「仲見世商店街プロデュース」など意見を出し合い沢山の学びがありました。今後の展望としては常葉大学ボランティアサークルとの提携がありますが、その他も積極的に外部連携を進めて行きたいです。